

第13回 馬淵川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

●：委員 ○：事務局

1. 馬淵川直轄河川改修事業の再評価について

●委員

治水経済調査マニュアルの改定によって被害額が増加することはコストが上がるということか。また、被害軽減期待額が増加することはベネフィットが上がるという理解で良いか。

○事務局

どちらも便益が上がるということです。

●委員

県からの要望にもあるコスト縮減に関して、河川の掘削土砂を堤防以外の他事業へ流用しているものがあれば、具体的に教えて頂きたい。

○事務局

河道掘削の土については道路事業にも活用している他、各市町村に情報提供しながら流用を図っていきたい。

●委員

できる限り広範囲に流用していただきたい。

●委員

馬淵川で河道掘削した残土に塩分は入っていないのか。

港湾で浚渫した土砂には塩分が含まれているため、他で利用することが出来ない。

○事務局

河道掘削は平水位より上を掘っているため、残土に塩分は含まれていない。

【審議結果】

馬淵川直轄河川改修事業について、事業の継続は妥当と判断する。

2. 馬淵川総合水系環境整備事業の再評価について

●委員

アンケートの回収率がかなり上がっているが、何か特別なことを行ったのか。

○事務局

今回、郵便局のポスティングサービスというタウンメールを活用したことによって回収率が上がったものと考えている。

●委員

抵抗回答というのは何か。

○事務局

抵抗回答とは、事業に対して理解した上で回答していない方を把握するために設けたアンケート項目に対する回答の一つで、支払意思額の有効回答から除外している。

●委員

魚道の維持管理はどのように行われているのか。

○事務局

出水等で流木や土砂がたまることもあるので、モニタリングを行い、できるだけコストがかからない維持管理に努めている。

●委員

漁業権が張りついているが、漁協と一緒に管理しないのか。

○事務局

馬淵大堰魚道検討委員会の中で、漁協関係者からも助言・指導をいただきながら維持管理に努めている。

●委員

魚道を遡上する魚種の確認種数が増えているが、魚道の改良によるものだと魚道検討委員会の間で認識されているという理解で良いか。

○事務局

遊泳魚のほか、底生魚の遡上にも配慮して魚道内の流速を抑制する改良などを魚道検討委員会の中で意見をいただきながら、同じ認識のもとで進めさせていただいている。

【審議結果】

馬淵川総合水系環境整備事業について、事業の継続は妥当と判断する。